

年間第4主日

第1朗読 ゼファニア 2・3、3・12-13

第2朗読 一コリント 1・26-31

福音朗読 マタイ 5・1-12a

2023.1.29

カトリック高円寺教会
主任司祭 高木健次神父

今日はまず「世界子ども助け合いの日」について確認しておきたいと思います。子どもたちが自分のことばかりの中に閉じこもるのではなく、他の国、あるいはおんなじ国の中にあってもいろんな形で困難を抱えている同じ世代の子どもたちのことにも心を向け、そして助け合う、そういう気持ちを持つことができるようにという祈りと献金の日になっています。それは、子どもたちにとってだけではなくて、わたしたちも同じように自分の殻から抜け出して、そして助け合うように招かれている、ということをおの機会にまた思い起こしたいと思います。

さて、昨日もこの教会のお庭の木の剪定などをしてくださってきれいになっています。わたくしも、昨年10月以来新しい司祭館に入れてもらい、また教会活動においては委員の方をはじめ教会の皆さんが助けてくださって、司祭としての喜びを感じていると言いますか、問題なく過ごさせていただいております。ありがとうございます。わたしにとっての問題は、今は高円寺教会のほうにはなくて、その他に教区で兼任の役がいくつかあるわけですが、そっちの方にあるわけです。それさえなければ本当に良いのにと良く思います。

ところが、今日の福音の中にいらっしゃるイエス様はわたしに、その問題があってもよかったね、それがなければ今頃君はとんでもないことになっているよ、とおっしゃっているような気がします。

今日の福音は、昔からの言い方で言えば、いわゆる真福八端、まことの幸いが八つ並べられて語られています。でも、イエス様はそのまことの幸いの中で、「心の貧しい人は幸いである」から始まって——心の貧しいとは、「貧しい」というのは「足りない」っていうことですね、心から足りない、本当に何かが根本的に欠乏している状態です——、悲しむ人だったり、柔和——柔和と訳されているのは、本来は重荷を負わされてそれを押しのけることができない状態だそうです——そのように重荷を負っていたり、義に飢え渴いている——正しいことが実現されていないがゆえの苦しみ、

また、迫害されているとか、言葉の単純な意味から見ても、八つのうち五つまでが、何か困難にある、苦しみの中にある人々が幸いなんだと宣言されています。

なんで、困難にある人が幸いなんですか？ それは、幸いの意味に繋がってきます。幸いとは、神様が共にいる、あるいは神様と共にいる、そういう状態を指しているからです。人がなんにも問題がなくて満たされている時には、神様のことを忘れてしまう、ということは旧約聖書からずっと、聖書の中でたびたび警告されていることです。今日の第一朗読でも、苦しめられ、卑しめられた民が神の民として残るんだという預言者の言葉が語られています。神様の民として、苦しめられ卑しめられた民が残る。

ある先輩の神父様、もう亡くなりましたけども、がこう言っていたことを思い出します。「神様から見捨てられるってどういうことだかわかるか？」、たぶん神学生の頃にこう言われたんです。「それは、いろんな問題が次から次へと降りかかってくるんじゃないぞ。なんの問題も起こらない、すべてが自分の思い通りになる、それが神様から見捨てられるってことだぞ」と言っていたんです。つまり、満たされると、自分の中に閉じこもってしまう、あるいはすべてが思い通りになればなんの成長にもつながらない、そんなことなんじゃないかと思うんです。

だから、今日の幸いを宣言されるイエス様は、困難や欠乏があるときに、そこがイエス様がわたしたちの中に入ってくるための扉なんだ、その扉をイエス様がノックしてるんだということなんじゃないかなと思います。その扉を開けるなら、わたしたちはイエス様と共に生きることができる。だから神父さんがもっとイエス様に出会うことができるように、教会の方でも問題を起こしてあげましょう、とご心配いただくなくても大丈夫です（笑）。問題がありすぎても力尽きてしまうっていうのも人間の現実ですね。

皆さんはどうでしょうか。そういうふうに言われるならば、それこそいろんな形で神様と繋がる扉はたくさん与えられているなあと思い当たるのではないのでしょうか。そしてまた、それぞれの一人ひとりが直面している困難は、その人にとってのためだけの扉ではない。共に担い合おうとするならば、他の人と助け合うことを通してわたしたちはイエス様に出会っていくし、それが今日の世界こども助け合いの日の趣旨でもあります。自分の中に閉じこもるのではなく、神様と繋がり、そして他の人とも繋がっていくように招かれている。その思いを新たにしたいと思います。それぞれの人生の中で多くの困難とか悲しみとか問題に出会っていらっしやると思います。それらを通してイエス様がお一人お一人の心の中に入り、そしてまことの慰めと幸いへと導

いてくださる、その希望を新たにして、お互いのために祈り合い、このごミサをお捧げしたいと思います。

ミサ説教はカトリック高円寺教会ホームページの「ミサ説教」のページにも掲載されています。

PC <http://www.koenji-catholic.jp/cgi-bin/wiki/wiki.cgi>

携帯 <http://www.koenji-catholic.jp/mobile/>